

平成30年度青少年意見募集事業
第1回ユース・ラウンド・テーブル実施結果について

1. 実施の趣旨

(1) 本事業の趣旨・目的

ユース・ラウンド・テーブルは、ユース特命報告員が特定のテーマの関係府省の担当者
と対面して直接意見を交わすイベントであり、内閣府が従来から行っている「青少年意見
募集事業」の関連事業として以下の目的・趣旨に基づき実施している。

- 子供や若者の考えを直接把握し、子供・若者育成支援施策の企画・立案に活用する。
- 子供・若者から聴取した意見を関係府省へフィードバックすることで、子供や若者の
社会参画意識の向上に寄与する。
- 子供・若者政策を担当する職員が直に子供・若者と接する機会を設ける。

(2) 今回実施の背景

児童ポルノ事犯は近年増加傾向にあり、平成29年中の検挙件数は2,413件、検挙人員は
1,703人と、いずれも過去最多であった。また、平成29年中の被害児童数は、過去最多で
あった平成28年より減少したものの、10年前(平成19年)と比較して4.4倍(H19:275
人、H29:1,216人)となるなど、増加傾向にある。

政府では、平成29年4月に「子供の性被害防止プラン(児童の性的搾取等に係る対策の
基本計画)」を策定し、子供の性被害の撲滅のための施策を推進しているところであるが、

児童ポルノ事件の被害児童の約4分の3が中学生・高校生であること、被害児童のうち
約2割の者が友人や交際者などの面識ある者から被害に遭っていること、児童ポルノ事
犯で警察に検挙された者の約3分の2が10歳代・20歳代の若い世代であること(～は
いずれも平成29年中)などから、若者が児童ポルノ事犯の被害者にも加害者にもならない
ためにどうすればよいか、中学生～29歳までの方々にインターネットでのアンケート(7/9
～7/29の間に実施)と併せて、対面式の意見交換会(ユース・ラウンド・テーブル)
を実施。

2. 実施内容

(1) 実施時期・会場

日時：平成30年8月28日(火)18:00～20:00

会場：中央合同庁舎8号館4階416会議室

(2) テーマ

「子供の性被害防止について」(提案元：警察庁)

児童ポルノ事犯の被害者・加害者に若い世代が多いことを踏まえ、当該世代の児童ポ
ルノに関する認識を把握し、訴求力のある被害防止教室や広報啓発をしていく必要があ
る。「被害を防ぐための方策(恋人などの親しい関係にある人から自分の裸の写真を求
められたときの対応方策、こういったことを訴えれば児童ポルノ被害の怖さについて認

第1回ユース・ラウンド・テーブル実施結果について

識を深めてもらえるか等)」と、「加害を防ぐための方策（若い世代の人たちが児童ポルノの犯人になってしまう理由は何だと思うか、加害を防ぐためにはどういったことを広報啓発していけば良いか等）」の2つのテーマについて検討する。

(3) 参加者

ユース特命報告員：21名

(中学生2名、高校生6名、大学生・大学院生8名、社会人5名)

警察庁(生活安全局少年課): 10名

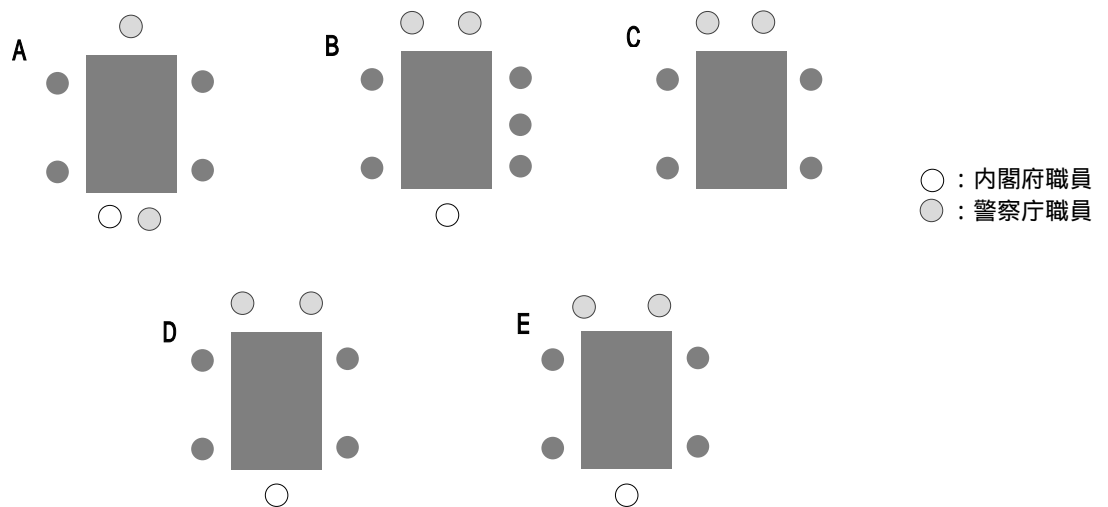
内閣府(青少年担当): 4名

(4) 実施方法

<タイムスケジュール>

18:00-18:10	オリエンテーション (10分) ・事務説明(内閣府から) ・冒頭挨拶(警察庁から) ・テーマとディスカッションの流れについて説明(警察庁から)
18:10-19:10	意見交換(第1部) (60分) テーブル内で自己紹介。テーマについて意見交換
19:10-19:15	発表前の準備 (5分) 各テーブルにおいて、発表準備。
19:15-19:40	発表(全体) (各班5分ずつ) テーブルごとに発表
19:40-19:50	意見交換(第2部) (10分) 発表を踏まえて、再度テーブル内で意見交換
19:50-19:55	閉会 職員から挨拶・アンケート記入

図1 配席図



3. 意見交換で出された主な意見及びとりまとめ結果

各グループで出された主な意見は以下のとおり。

Aグループ

グループ構成：7名（中学生1名、高校生1名、大学生・大学院生1名、社会人1名、内閣府職員1名、警察庁職員2名）

【自画撮り被害が起こる原因】

<なぜ被害者は自分の下着姿や裸の写真などを送信してしまうのか>

- ・好きな人に自分を見て欲しい。
- ・要求を断って相手に嫌われたくない。

<なぜ加害者は下着姿や裸の写真などを送信させるのか>

- ・性的欲求
- ・他の人が持っていない画像を持ちたい。

<なぜ裸の写真などをネット上にアップしたり、拡散したりしてしまうのか>

- ・承認欲求（「いいね！」が欲しい）
- ・興味本位
- ・軽はずみな気持ちで、後のことを考えていない。
- ・遊び
- ・いじめ

<その他>

- ・教育不足、インターネットリテラシーの不足

【対策】

<教育>

- ・教科書などに事例を沢山載せる。
- ・携帯電話安全教室を授業に取り入れる。
- ・学校の全校集会などで周知する（自分が通っている学校では、自画撮りはやってはいけないこと・やらせてはいけないことだということが周知・指導されていて、その意識が根付いている。）
- ・再現DVDを見せる機会を今より増やす。
- ・警察による被害防止教室の実施（自分が通っている学校に、警察の人が来て話をしてくれたが、実際の事例を聞いて印象に残った。）
- ・色々な広報資料も一人一人に配られないと見ないかもしれない。自分自身は漫画形式のものなら読むかもしれないが、人によっては読まないかもしれない。
- ・男子と女子とで分けた教育（加害者にならないため、被害者にならないため）が必要ではないか。
- ・VRの活用（児童ポルノ事件の犯人として警察に捕まった場合どうなるのか、具体的に経験させる。）

< 広報・啓発 >

CM (テレビ、ネット)

- ・アニメのキャラクターや、芸能人などを用いて、親しみやすく、印象に残るよう工夫する。

SNS等による広告

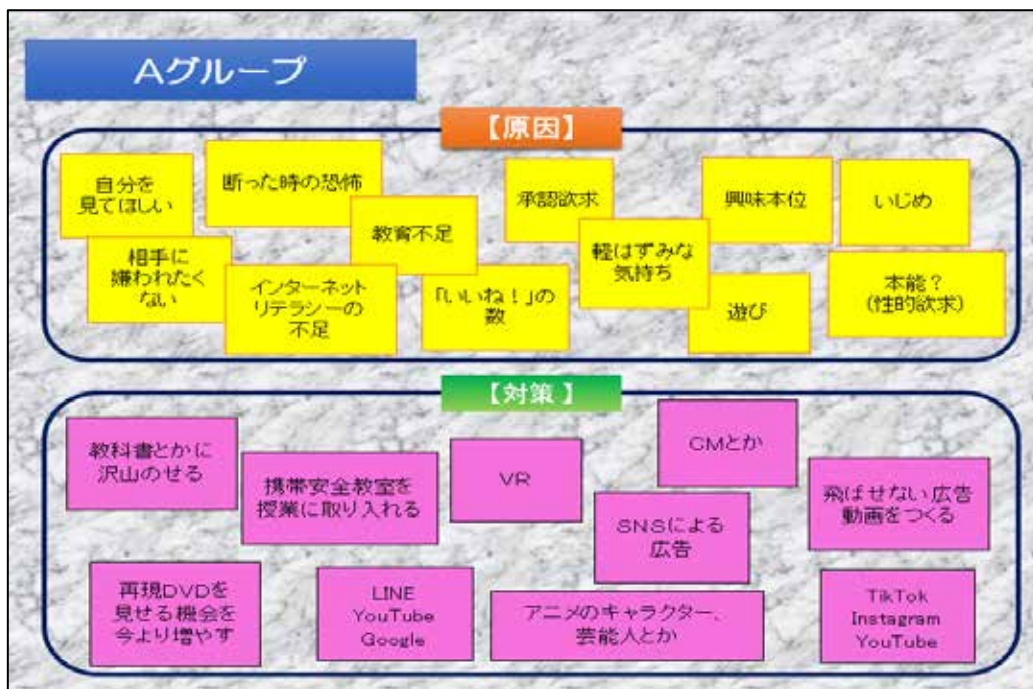
- ・「×」(閉じる)で画面を遷移させないようにする。あるいは遷移できない10秒程度の短い広告内容とする。
- ・若い人がよく使うSNS等に掲載する。(LINE、YouTube、Google、TikTok、インスタグラムなど)

紙の広報啓発資料

- ・既存のものは文字が多すぎる。キャッチコピー程度で良いのではないか。細かいところまでは読まない。

広報・啓発の対象

- ・被害に遭いやすい人を中心に広報や啓発を行ってはどうか。
- ・広報や情報を届けたい人に限って届きにくい。その辺りの工夫も必要。



第1回ユース・ラウンド・テーブル実施結果について

Bグループ

グループ構成：8名（中学生1名、高校生1名、大学生・大学院生1名、社会人2名、内閣府職員1名、警察庁職員2名）

【被害者が自分の下着姿や裸の写真などを送ってしまう原因】

<知っている人（友だち、恋人など）に送る（送らせる）場合>

- ・断って、気まづくなったり、嫌われたりしたくないから。
- ・ノリ
- ・友だちがやっているから、自分も

<知らない人（SNSで知り合った人など）に送る（送らせる）場合>

- ・嫌われたくない（ネット上の関係を大切にしたい）
- ・性的なことへの興味
- ・家族や身近な人との関係がうまくいっていない。
- ・相談できる人がいない。
- ・第三者だからバレないだろうという考え

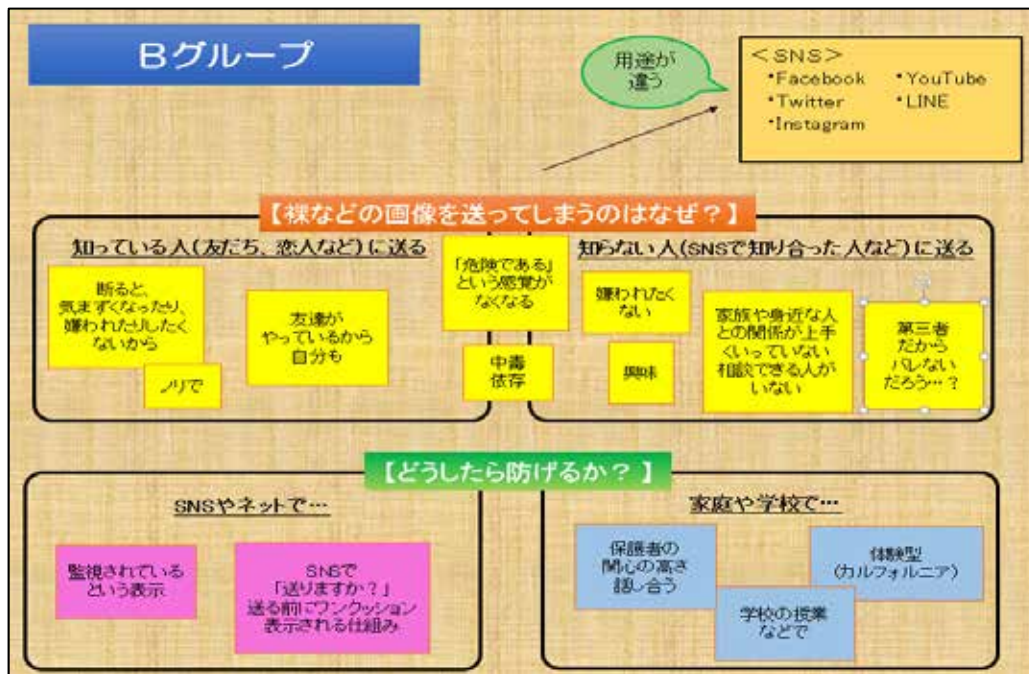
【自分の下着姿や裸の写真などの送信を防ぐためにはどうしたらよいか】

<インターネット、SNS上での対策>

- ・スマートフォン等の利用状況は他人に見られているかもしれない、などの表示をする。
- ・画像を送信する前に「送りますか？」という表示がされるようにして、送信前にもう一度考えさせるきっかけを作る。

<家庭や学校での対策>

- ・保護者にも関心を持ってもらい、家庭で話し合う機会を持つ。
- ・家庭内でインターネット、SNSの利用ルールをつくる。
- ・学校の授業で取り上げる。
- ・保護者の同意の下、SNS上で出会った人に実際に会いに行き、危険な思いをするまでを体験させる取組を実施する。（アメリカでは実施例がある。）



Cグループ

グループ構成：6名（高校生1名、大学生・大学院生2名、社会人1名、警察庁職員2名）

【なぜ被害者は自画撮り画像を送ってしまうのか】

<送ってしまう原因>

- ・友人同士、恋人同士であるがため、気を許して送ってしまう。
- ・嫌われたくない。
- ・喜んでもらいたい。

<送らせる理由>

- ・相手のことが好きすぎてたまらないから。

<その他>

- ・男女間で、下着姿や裸といった性的な画像の珍しさについて認識で差がある。
- ・色々な原因があるが、一番問題なのは、後のことを考えず、送っていることにある。

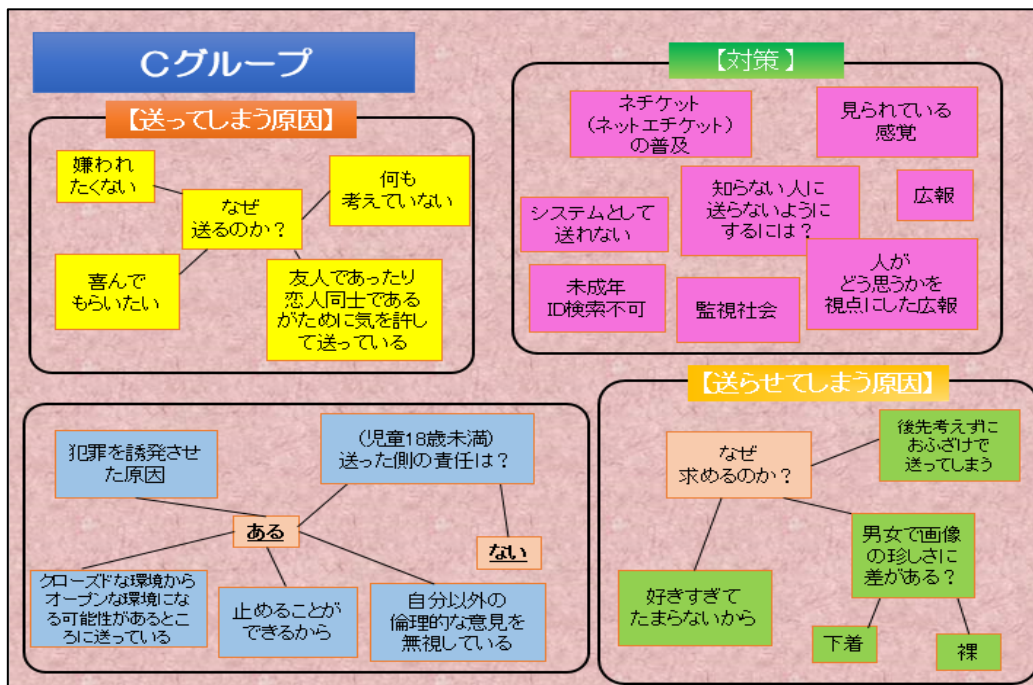
【対策】

<技術的に送信を防ぐシステムを構築>

- ・AIを活用して画像の色合いを解析し、露出の高い下着姿や裸の写真を送れないようにする。
- ・面識のない人とやり取りができないようにするため、未成年者のID検索を不可とする（SNS事業者による対策）。

<広報・啓発>

- ・SNSやインターネット上での投稿が多数の人に見られているという認識のない人が多いので、「見られている」という感覚を持たせるための広報を行う。
- ・他人がどう思うかを視点にした広報は注目されやすい。
- ・SNS上（Cチャンネル、インスタグラム、LINE、YouTube等）に広報動画を載せると見てもらえやすい。
- ・ネチケット（ネット上でのエチケット）を普及する。



Dグループ

グループ構成：7名（高校生1名、大学生・大学院生2名、社会人1名、内閣府職員1名、警察庁職員2名）

【自画撮り被害を防ぐための対策】

<教育（学校、家庭）>

- ・学校教育で、警察官などの専門家を活用する。
- ・実際の事例を踏まえた内容を教える。
- ・学校外での教育支援を行う。
- ・家庭や学校で話し合う場を持つ。
- ・「やってはダメだ」というのは分かるが、「なぜダメか」というロジックが分からない啓発資料が多い。
- ・学校・家庭のほかに、SNS上で話し合う場ができないか。
- ・近年、特に都心では、コミュニティ（部活動等だけでなく、地域コミュニティ）が希薄になっていると思われるが、SNS上のコミュニティは盛んである。これをうまく利用して、教員や警察が教育する方法もあると考える。ただし、ネット上の情報の信頼性等を考慮すると、実際に対面しての教育よりも伝わる力は低い。

<メディアリテラシー>

- ・SNSの危険性に気付いていないことも原因の一つだ。情報がインターネット上に一度出ると回収できないというSNS利用の危険を知って、不要な情報をSNS上に載せないことが大事だ。

<技術的防止>

- ・送る側だけでは気付けないことも多い。送る側への啓発だけでは不十分なので、企業にもCSRとして、技術的部分で協力してほしい。
- ・写真送付時に「自画撮り」に関する警告を出す。
- ・機械的な画像の分析（色合いの分析）により、肌の露出が多いと認められる場合には警告を出す。
- ・検索ワードの予測候補を活用する。

<広報・啓発>

興味のない人や子供・若者に情報を届ける工夫

- ・電車の中吊り広告、動画広告
- ・YouTube 広告
- ・スマートフォンの契約等の際に、子供に必ず啓発DVDを見せる。
- ・地方では自転車登校もあるので看板などを設置
- ・ショッピングセンターなど人の集まる場所での広報（そういった施設にも積極的に協力してもらう。）

内容の工夫

- ・被害の実例を具体的に紹介
- ・恐怖心、危機感を伝える内容にする。